

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域に根ざした、地域に愛されるホームを目指すため独自の理念を掲げている。	難しい言葉は使わず誰が見ても理解しやすいものになっている。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	常に理念を第一に考え意識し理念の実現に向け取り組まれている。	日々の中で管理者と職員が理念を共に話し合い全職員間で理念の理解を深め徹底する。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	玄関に理念を掲示し理解してもらえよう努めている。また、契約の際にも理解していただくように説明している。	まだ、家族や地域に理念が浸透しているとは思えない。職員から地域、家族に伝えるように働きかける。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	取り組みとしては特別なことはまだ行っていないが畑を見たり、手伝いをして頂いている。	今後、地域の方の要望をお聞きして役立つように努めていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	代表が地域の自治会に積極的に参加している。近所の小学校の行事にも入居者、職員共に参加し交流を深めている。	ホームが地域の中にあるという事を地域の皆さんにより一層、知って頂けるよう積極的に外との交流を図る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組みとしてはまだ現段階では行ってはいない。		今後地域の方の希望をよくお聞きし考えていきたい。
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員間で改善点についての話し合いの場を設けて改善できるものからきている。ユニット内で具体的な目標も定め評価を活かしている。		全職員が意義を全て理解しているとは、まだ言えないので運営者、管理者が分かりやすく伝え、活用する姿勢を見せしていく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、情報交換にとどまらず、率直な意見をもらう時間を設けている。何でも言い易い雰囲気作りを心掛けている。意見を検討しサービス向上に活かしている。		決まった家族の参加になりがちである。今後、医療機関と連帯を強化する事、入居者への化粧やマッサージを行なってみる。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者、管理者は常々、市町村担当者に運営の現場の実情を伝えて行っている。考え方を共有しながら共に取り組んでいると思われる。市と現と一緒にフィンランドプロジェクトに取り組みホームでも入居者からモデルを選びハビリの効果について取り組んでいく予定である。		今後も市と協力しながら連絡を密に取り合っていくと思う。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ユニットに該当される方がいっしょに管理者から学ぶ機会があった。成年後見制度についても学んでいる。必要時は管理者が関係者と話し合いを行い支援できている。		再度内部研修でとり上げ全職員、正確に理解できるように努める。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者から虐待や抑制についての研修を受けていて全職員理解している為そのようなことはない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際、十分な時間を頂き分かりやすい説明を心掛けている。疑問点、不安な所を確認しながら理解、納得を図っている。</p>		<p>家族には説明が十分されているが入居者本人の納得を得た上での契約は今後も課題となると思われる。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部者へ表せる機会は今の所、設けてはいないが全職員で入居者の声に耳を傾けている。実際、色々な意見が聞かれている。いつも、そのままにせず解決に向けて取り組んでいる。</p>		<p>参加可能な入居者の方から運営推進会議に参加し意見、願い等お聞きしてみる。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回家族へ金銭の収支報告と普段の様子についての手紙を送っている。体調の変化等あればその都度、報告、相談させて頂いている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常日頃家族からのご意見を受けた職員が文章に残し職員間で検討し家族に報告している。外部者へ表す機関も設けている。その旨を家族にも説明している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者や管理者は職員の意見に常に耳を傾ける姿勢である。職員の意見、要望も運営者に伝わるよう用紙にて記入することもでき反映されている。</p>		<p>定期的に運営者、管理者を交え全体会議を開催してみる。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>時間をずらしたりパートの職員の時間を増やしたり不都合が生じればすぐ話し合い変更できるように考えている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>出切るだけ馴染みの関係を壊さないように配慮されている。代わる場合もダメージが少ないよう検討している。</p>		<p>お互いのユニットを多く行き来してダメージを最小限に抑えるよう努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者、管理者は必要な研修に参加するように指示をだしている。法人内にもさまざまな事柄について理解を深める為研修の機会が確保されている。</p>		<p>外部で研修を受けた職員が他の職員に教える為に内部研修を行っている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同市内のグループホームと交流会を行い、悩み共有、意見交換などされている。他のグループホームとの違いや共通点などを理解しサービスの質の向上に努めている。</p>		<p>交流会だけでなく他のグループホームへの研修等行いお互いの質の向上に努める。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者、管理者は常に職員の話しに耳を傾けるよう努めている。職員同士で相談しあう等ストレス軽減の為の環境づくりがなされている。</p>		<p>まだ、言えない職員もいると考えられるので十分に配慮はして行きたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は管理者から職員個々の努力や勤務状況の情報をもらって把握に努めている。また各自向上心を持って働けるようにコミュニケーションを多くとるようにしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に面接を必ず行なって本人の話しはよく聞くように努めている。</p>		<p>一回の面接で信頼関係を築く事は難しいが本人にとっていい方向に行くように検討している。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の話しを十分に聴き、些細なことも教えてくれるように伝えている。今までの家族の体験や思いを理解するようにしている。</p>		<p>事前に沢山の情報をよく聴いて家族と本人の思い、家族同士での意見の違い等の理解をする。また、出来ないこと分からないことは曖昧な返事はせずきちんと答えを返していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態をよく見極めて他のサービスがふさわしければ、その事を家族、ケアマネに伝え相談している。		本人、家族の要望をもとに見極め必要に応じた出来る限りの対応に努めている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	前もって、泊まり体験をして頂いたり施設利用されたことのない方にはなれて頂くためデイサービス利用されてから入居して頂いたりデイサービスからグループホームに移られた方もおられた。		本人が安心出来るように話しをよく聴いたり全体で受け入れるような雰囲気作っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にし本人のできる範囲での家事手伝いや得意とする事柄、知識等を教えてもらったりしている。		コミュニケーションを図り一方的な関係を脱して信頼関係を築くように努めている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や家族会に参加して頂いたり行事等にも声を掛け本人と一緒に過してもらったりしている。何かあればすぐ連絡をとりカンファレンスにも参加を呼びかけている。		家族との信頼関係が重要だと日頃から指導している。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの両者の関係を踏まえながらお互いの希望を聞いている。必要があれば連絡・調整をおこなっている。面会の際は好きな場所でゆっくりと話しをして過して頂いている。		今後もよりよい関係が築いていけるよう支援に努める。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら馴染みの場所へ連れて行って頂いたり職員がお連れしたりしている。		可能な限り外出はお誘いしていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲のよい入居者同士が過ごせる様な配慮や交流がもてる配慮を行っている。		皆で交流が持てるような場面作りトラブルにならないような配慮は今後も必要。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後でも入院先の病院に運営者、管理者が面会に行ったりしている。家族にも出来る限り相談に応じる姿勢を示してきている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望を聞いて月に一人二人の希望をかなえていけるよう努めている。常日頃からコミュニケーションは十分とるように努めている。		温泉に入ってきたり大形ショッピングセンターへ買い物に出かけたりと実現させている。今後も出来る限りかなえて行きたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査での資料や家族が来られた時に話しを伺ったりしながらこれまでの経過把握に努めている。		家族との信頼関係、馴染みの関係をよりよく築いていく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員の24時間シート記入からユニット会議での意見の出し合いも含め入居者の出来る力の現状の把握に努めている。		今まで以上に生活記録用紙への記入を本来の目的を考えながら細かく記入し本人の出来る・分かる力の把握に努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議にて意見を出し合いそれを基に計画作成している。家族にも説明し要望があればうかがい了解を得ている。		本人の状況の把握に努め本人の気持ち家族の気持ちを尊重する。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	課題の見られる方に対しては家族とカンファレンスを行い意見を伺い医師への相談、指示を仰ぎ早急に対応している。		家族、必要な関係者と細やかな連絡をとる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を取り入れ実践してみた事や結果、気づきを具体的に記入している。職員間での共有に役立っている。		記録を流率的に書いてしまいがちになる事もあるので本来の記録の意味を全職員に指導していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な病院受診やリハビリにお連れする等その時々々の要望に可能な限りそうようになっている。		その時々々の本人、家族の状況や要望に向き合い柔軟に対応していくよう努める。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて協力体制はあるがまだ十分に協力が得られているとはいえない。		グループホームを理解してもらい今後もそれぞれに働き掛けていく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	管理者が関係者と連絡を密にとり情報交換をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者が関係者と連絡をとりあい事業所のみでは解決困難な状況となった場合は協同し地域で支えあうことを常に頭に置き努めている。		今後も協働していく為にも常に連帯を取るように行きたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が家にいた頃からのかかりつけ医に家族に受診を依頼している。こちらからかかりつけ医の変更をお願いすることはない。家族に受診を依頼している為、必要に応じかかりつけ医に本人の様子等を手紙やファックスにて伝えている。		本人にとって一番よい状態となるように信頼関係を築いていくように努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医ばかりではないが認知症の知識を持ち合わせているので入居者それぞれの主治医に相談し診断や治療が受けられている。		今後も相談に乗って頂いたり指示を仰ぎたいと思っている。連帯をはかれるように働きかけていきたい
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホームには看護師がおり、入居者の健康状態などに関して指示をもらうなどして支援している。また、デイサービスにも看護師が常駐しているので必要時相談し指示を仰いでいる。		地元の看護師や保健師なので医療機関にも詳しい。医療機関への受診に関しても適切な指示を出している。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院した際は定期的に病院へ足を運び病院関係者との話し合いを持ち退院に向けての情報交換を毎回必ず行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合についてご本人の希望は聞いていないが家族には重度化した時や終末期について本人が一番よい方法を話し合っている。また、場合に応じてかかりつけの医師にも相談している。		本人、家族の希望を踏まえて一番よい方法を考えていきたいと思っている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の入居者に対して安心、安全を確保した状態でよりよい生活が維持できるよう対応可能な事・困難な事・不安な事等を職員全体で話し合い家族の意見も聞きながら日々ケアをしている。必要な事は医師に相談し指示を仰ぎ変化に対応できるようにしている。		終末期の入居者は現在いないが重度化している入居者に関してはユニット会議や家人にも参加して頂きカンファレンスを開いている。変化や気になることがあればその都度、話し合いを設けている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み慣れた場所からの転居なので事前にケアマネージャーや本人に関わる複数関係者と情報交換しダメージを最小限に努めている。		最初の段階で本人の習慣や好みを考え自宅での生活に近い状態で転居できるように家族にお願いしている。また、自宅でのケア工夫等もお聞きしホームでの生活を維持できるよう配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>誇りやプライバシーを損ねるような対応はしていない。言葉遣いが不適切な職員には都度、話しをして改めてもらっている。記録等の取り扱いにも十分配慮している。</p>	<p>不適切な対応がみられたら職員間で注意し合える関係作りしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>今は1週間に1回、入居者の方の希望献立の日を設けている。入居者の方から色々な希望を聞き出し楽しんでもらっている。意思表示をあまりされない方の事も十分配慮している。</p>	<p>職員が希望を押し付けることなく、あくまで入居者主体で自己決定できるように支援する。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>天気が良くドライブ等の希望があれば行っている。入居者のペースに合わせて優先させるように努めている。やむ得ない時は、その旨を話し了解してもらっている。</p>	<p>一人一人のペースを大切に優先しているとは思いますが全ての入居者とはまだ言えないので個々に応じていく必要あり。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容、美容に行くときは家人に頼んで昔馴染みの所でもらっている。衣類購入希望があればお連れして選んでもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>お一人お一人の好みを職員が良く理解しており献立作りに活かしている。食事作りも毎食参加してもらっている。入居者が得意とする物は任せて作ってもらっている。後片付けも食器洗機等もあるがえて手作業でもらっている。</p>	<p>いつも同じメンバーで食事作り、後片付けをしていると不満が出るのであまり偏りすぎずメンバーを考えていく。お礼の言葉を伝えたりし意欲を高めるようにしている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒は出していないが、おやつ等は買い物に行った際食べたいものを聞き購入し出している。誕生日にはその方の一番好きな物を聞きお出ししている。</p>	<p>今後もお一人お一人の好みや食べたいものを聞いて楽しむにつなげるようにしていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	今は日中、夜間オムツ使用者はおらず。大体の排泄パターンは把握できている。トイレ誘導の声がけも様子を見たり時間を見て行なっている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中のみしか行っていないがその人に合った時間に入浴して頂けるように心がけている。入浴日以外でも希望があれば入って頂いている。		希望があれば夜(職員2名の時間)に入浴、シャワー浴などしてもらえるよう検討する。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	様子を見て必要なら休憩や昼寝等をしてもらっている。夜間なかなか入眠されない方には自然なリズムがつかれるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人お一人の楽しみや役割を見つける事が出来るように日々の会話等や生活歴から探している。職員全員で喜んでもらえるように日々努めている。		今後も、お一人お一人のもっと沢山のしたい事、出来ることを知るよう努めていく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く時、おこずかいを職員がもって行き支払いの段階で本人に渡し支払ってもらっている。また、お金を手元に置いておきたいと希望される方にはおこずかい程度だがもってもらっている。		可能な方ならば出掛ける時本人に持ってもらう事を試してみる。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出かけたいと要望があれば可能な限り出かけている。買い物も毎日入居者と出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一人位の割合で希望の場所を聞き実施している。他の入居者もいく事が可能なら一緒に外出している。		家族の理解、協力が今ひとつと思われる。今後、働きかけていく必要あり。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話など自由にして頂いている。年賀状も書いて頂いている。		本人の希望があれば手紙など書く機会を作っていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は一応設けてあるが、それ以外でも連絡をもらえば可能と家族には伝えてある。いつでも、誰でも気軽に尋ねてもらえている。泊まっていられる家族もある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が理解しており拘束は行っていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間玄関の鍵をかける以外は鍵はかけておらず、自由に外に行かれている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	外に行かれる方に対して、すぐ呼び止めず自由にしてもらっているが見守り所在確認を職員間で行なっている。近くに危険な場所等ないか事前に調べてある。		地域の方にも理解して頂くよう自治会に参加したりその都度話し協力してもらっている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物は夜間事務所に保管されている。薬は薬棚に保管、整理されている。キッチンの洗剤も夜間は保管されている。危険な物は鍵のかかる倉庫に保管してある。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修や訓練をきちんと行なっている。ヒヤリハットの報告もされてい全職員、目をどうしている。		色々な事故等を想定して訓練をしていき実際に起きててもあわてる事のないようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練を行ない実際の場面で活かせるように努めてはいる。		全職員が全て出来ているとはまだ言えないので緊急時や事故等、あわてず確実に行動できるように定期的に取り組む。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練、地震時の訓練は行なってきたが昼間を想定しており夜間の人数不足の時はまだ行っていない。地域の方には協力のお願いはしてある。		夜間想定 of 訓練を早急に行なう。地域の方を交えて訓練を行ってみたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	定期的にはまたは状況変化に応じて家人との話し合いを設けていて納得と理解の上で支援させてもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	気が付いた事は、すぐ報告しあい記録に残し申し送りをしていいる。情報は職員一人一人に伝わるようにしている。		些細な事も見逃さずきちんと記録に残し確実に情報が伝わるようにする。常日頃から観察する力を養う。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルは作成してあるが全職員全て理解しているとはまだ言えない。心身上の変化があった時は記録に残し医師、家族に伝えている。		全職員、薬の目的、副作用、用法を確実に把握するように指導していく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく身体を動かしてもらい野菜(繊維質の多く含むもの)や海藻類を多く摂り入れバランスの良い献立作り力を入れている。水分量もチェック表を用いて毎日記入されている。		排便の有無を確実に記入し排便見られないときは味噌汁に糸寒天、おやつに寒天を摂り入れている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後には全員に歯磨きしてもらっている。一人で出来ない方には職員が支援している。入れ歯は定期的に洗浄剤にて洗浄している。		歯磨きがきちんとされたか声を掛け確認している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常にチェック表にてその日の状況を記入している。栄養面に置いて栄養士の指導を受けて取り入れている。		体重増加計の方は個別に対応している。(こんにゃくご飯等)水分摂取量少ない方にはこまめに出し好みの物を提供している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいの励行、マニュアルを目に付くところに置き徹底している。		新しい職員も入るので今後も教えていく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	肉、魚、野菜とでまな板、包丁を分けて使用されている。消毒も毎日している。入居者が調理に携わる際も十分に配慮している。		その日に余ったおかずや賞味期限切れの食品等は、すぐに処分して常に新鮮な食材を管理していく。冷蔵庫、野菜ストックの整理整頓実施継続。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはホーム内での様子を写真にて掲示されている。季節の花を植えたり玄関周りの清掃に気を配っている。		建物が道路から見えにくいので、少し入るのに戸惑うかも知れないが常に開放感を保てるように心掛けている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に不快な音や光がないように配慮されている。陽射しが強い時は入居者に聞きながらブラインドで調整している。出来る限り生活感、季節感のあるものを入居者と相談しながら取り入れている。		今後もなじみのある物季節感を感じられるものを取り入れていきたい。入居者からも教えてもらうようにする。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数ヶ所にソファが置かれてあり椅子、畳のスペースも設けられている。一人でも多数でも自由に過ごせている。		ソファや畳の周りを常に整理整頓に心がけ居心地よく過ごせるように工夫したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた物を居室に置かれている方が多く居心地よく過ごされている方もいるが反面殺風景な方もいる。		今後も家族に働きかけ思い出の品物等持ってきていただく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	特に匂いや空気のだよみはないが寒くなると徐々に換気の回数が減ってきている。温度調節は入居者の体調に配慮しながら行なっている。		換気扇だけに頼らずこまめに換気していく。温度調節は入居者に合わせる。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には配慮されているが、まだまだ一人一人に合わせて工夫が出来ているとは言えない。		常に入居者が出来るだけ自立した生活が長く送れるように配慮し工夫をしていけるように努める。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員が手を出しすぎずできる事はなるべくしてもらっている。一人一人の自立心を見守るように努めている。混乱のある方には職員付き添い安心してもらえるようにしている。		もっと一人一人の出来る事を探し出来る力を見極めながらさりげなくサポートしていきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑には野菜や花があり希望者には手入れをして頂いている。ベンチもあり憩いの場所になっている。		希望される方には畑の一角を貸しそこで思うように野菜を育ててもらってみる。